

ABC検査（胃がんハイリスク検診）とは

血液検査により、ピロリ菌の感染の有無と胃粘膜の萎縮度を測定して「胃がんになりやすいか、なりにくい」のリスク度を判定し、早期発見と治療に繋げる検査です。胃がんそのものを見つける検査ではありません。

ピロリ菌抗体検査	陰性（－）	陽性（＋）	陽性（＋）	陰性（－）	ピロリ菌除菌済み （リスク判定対象外）
ペプシノゲン検査	正常（－）	正常（－）	異常（＋）	異常（＋）	

判定結果	A 群	B 群	C 群	D 群	E 群
胃の状態予測	健康な状態 胃粘膜の萎縮なし	ピロリ菌感染はあるが、胃粘膜の萎縮は軽度	ピロリ菌感染があり、胃粘膜の萎縮が進行中	胃粘膜の萎縮が進みピロリ菌が棲息できなくなる	除菌により、胃粘膜萎縮が改善傾向
胃がんの危険度	低	→ 高			やや高い
胃がんの発生頻度 /年	ほぼゼロ	1,000人に1人	500人に1人	80人に1人	500人に1人

重 要

検査後の対応	胃内視鏡検査は不要	早めに 胃内視鏡検査※を受けましょう			胃がんリスクは低くなりますが、経過観察のため定期的に胃内視鏡検査を受けましょう
今後の対応	5年に1回程度は胃内視鏡検査※を受けましょう	【異常なし】 定期的に胃内視鏡検査※を受けましょう	【異常あり】 必要な治療を受けてください（保険診療）		

※胃内視鏡検査は、「単独検査」として健保の費用補助があります。

ABC検診による判定に適さない人

- ◆ 胃の病気の治療中である方
- ◆ 胃を切除した方
- ◆ 胃酸を抑える薬を服用中である方
- ◆ 慢性腎不全の方
- ◆ 抗菌薬を長期間服用する病気の既往歴がある方

上記に該当する方は、正しくリスク判定することが難しいためABC検診による判定に適していません。
主治医と相談し、定期的な内視鏡検査などで経過観察をしてください。